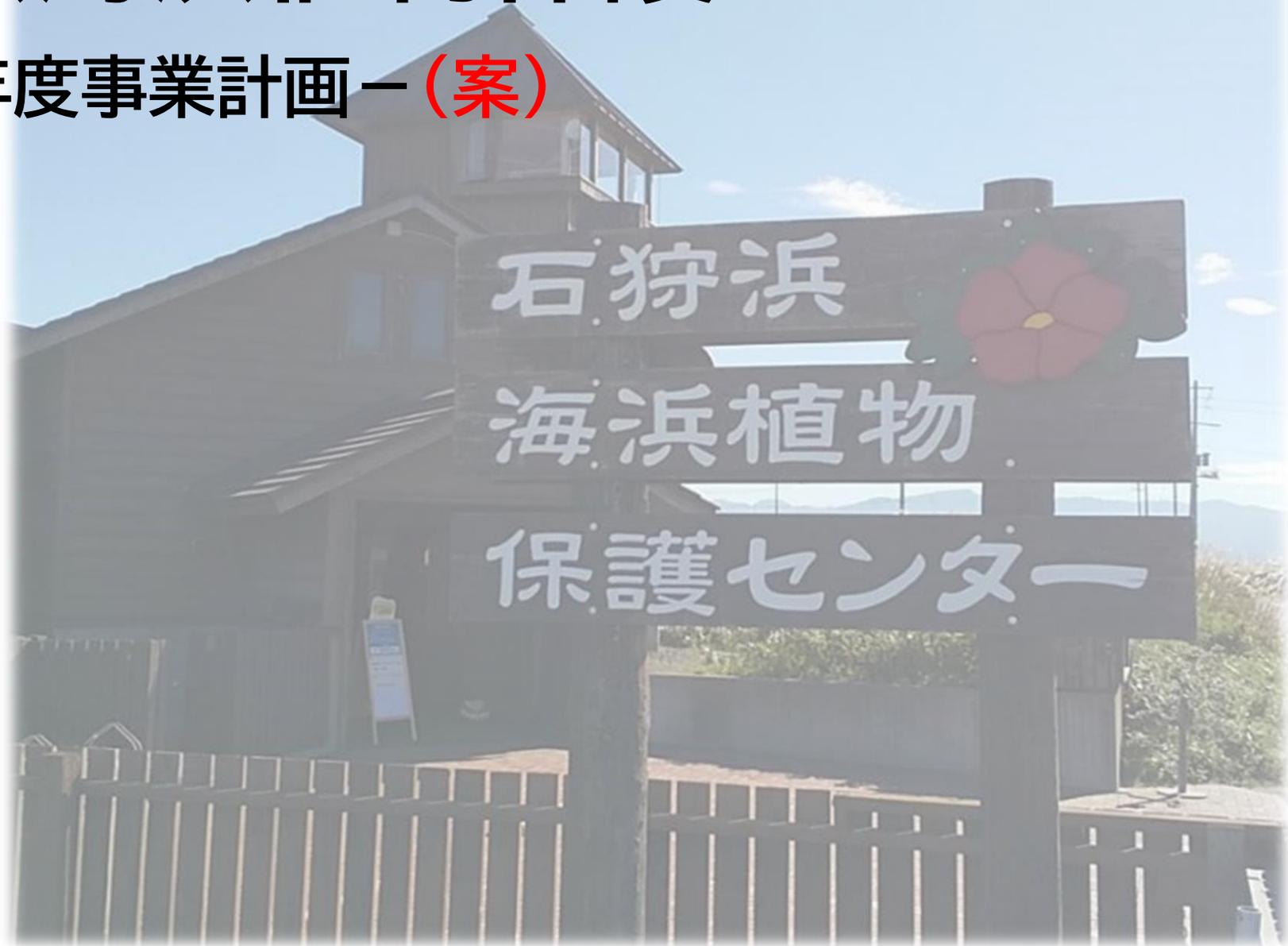


# 石狩浜海浜植物保護センター

－令和5年度事業計画－(案)

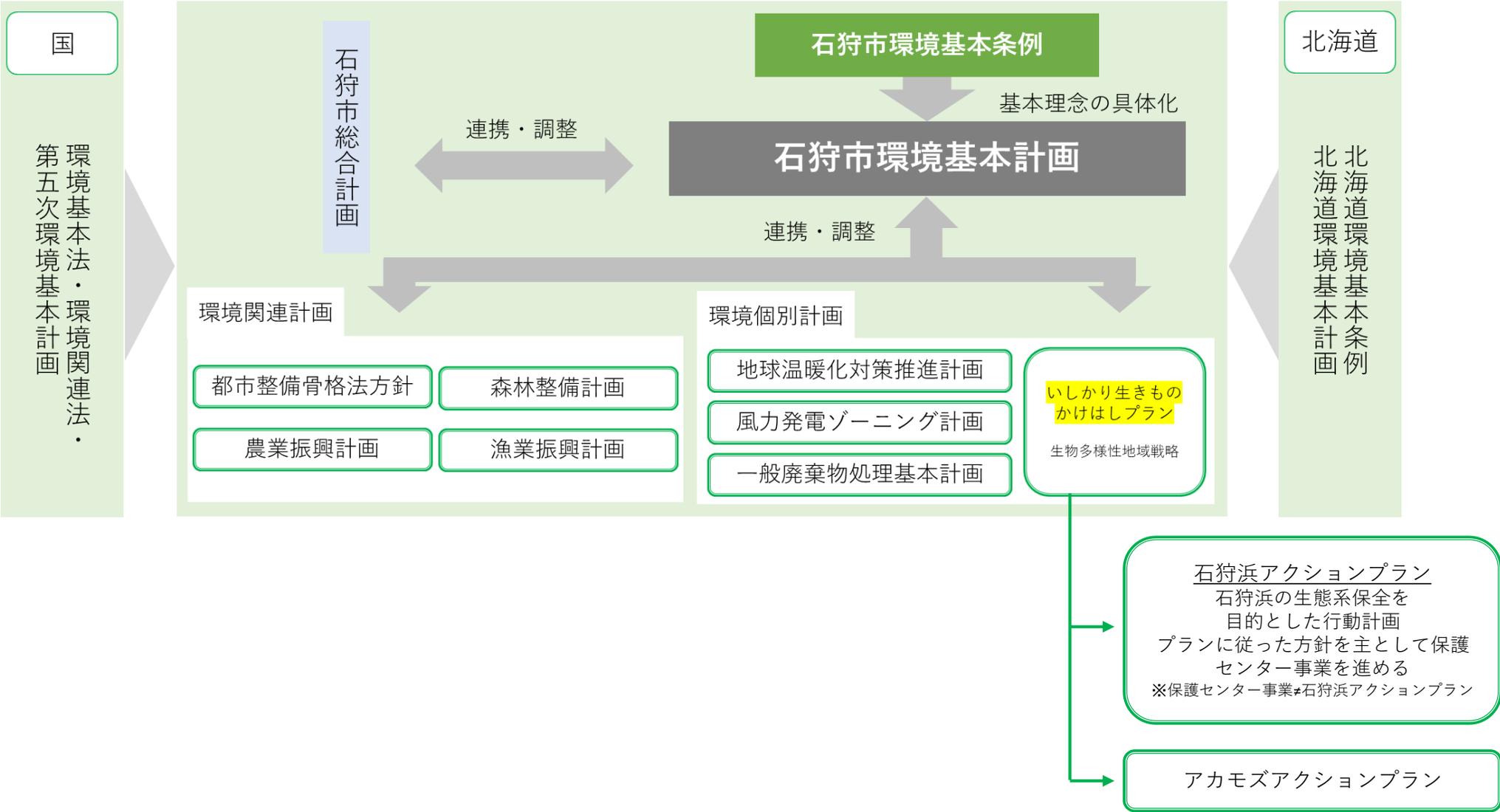


# 目次

- 1. 石狩浜海浜植物保護センター事業の位置づけ ……1
- 2. 石狩浜海浜植物保護センターのコンセプトについて ……2
- 3. 令和5年度石狩浜海浜植物保護センター事業計画 ……3
- 4. 令和5年度事業概要について ……4
- 5. 石狩浜海浜植物保護センター運営体制 ……18



# 1. 石狩海浜植物保護センター事業の位置づけ



## 2. 石狩浜海浜植物保護センターのコンセプトについて

### 【設計当初】

石狩浜の砂丘、海岸草原や天然生海岸林にある植物の保護、快適な自然環境を創造するための拠点として設置。貴重な財産である恵まれた環境を保全してゆくための方針を確立するとともに、ライフスタイルの多様化に伴う幅広い自然市民ニーズにこたえてゆくための自然とのふれあいの場の創出と保護、保全、緑化の推進を図る必要性を求められている。

### 【現状】

展示室には常設展示で石狩浜の成り立ちや、保護の歩み、海浜植物の生態について環境ごとに展示をしている。その他、時期に合わせた開花情報等の情報発信。

観察園は外来種の侵入が少なかった時代に見られた海から海岸までの植生遷移を再現区で管理をしている。全体としてはハマナス群落を軸に、自生地に設定した見本区をもとに海浜生態系を再現をしている。その他、種子の保存・苗作りなども並行し、海浜植物の育成手法や生態についてノウハウを蓄積している。

再生園では、ハマナスが彩る景観の保全と、ハマナスを通じた地域の魅力発信に向けて、ハマナス群落の再生手法の検証と、ハマナスの花弁や果実の持続可能な利活用を進めている。



### 石狩市石狩浜海浜植物保護センター条例

#### (設置)

**第1条** 本市は、石狩浜に自生する海浜植物の保護等を行い、及び植物を始めとする自然環境の保全に関する意識の普及啓発を図ることにより、自然豊かな都市環境の形成に寄与するため、石狩浜海浜植物保護センター(以下「センター」という。)を石狩市弁天町48番地1に設置する。

#### (事業)

**第2条** センターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 海浜植物の調査、保護及び増殖に関すること。
  - (2) 石狩浜の自然環境の保全に関すること。
  - (3) 前2号に掲げる事項に関する資料の展示及び学習の指導に関すること。
  - (4) 前3号に掲げるもののほか、センターの設置目的を達成するために必要な事業
- 2 センターは、前項の事業を行うに当たっては、海浜植物の保護等を目的として活動する団体との連携を保つものとする。

### 3. 令和5年度石狩浜海浜植物保護センター事業計画

事業方針	事業概要	環境基本計画方針
I 情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる	【自然情報発信・体験学習事業】 海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図る。	自然との共生 環境教育の推進、環境意識の向上
II 生物多様性の保全・データの蓄積	【調査・研究・保全事業】 情報発信・体験学習に必要な自然情報のみならず、観察園・再生園の整備に必要な現地情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。	生物多様性の保全
III 地域資源としての持続的利活用に向けた基盤をつくる	【資源活用の基盤整備事業】 持続可能な範囲内で海浜植物を活用していくことで、海浜植物と関わる郷土文化の継承や、多様な主体が保全に関わる基盤の構築。	自然との共生 様々な主体との連携・協働

### ○第3次石狩市環境基本計画(令和3年～令和22年)

【自然環境分野】 生物多様性  
豊かな自然と多様な生物、そして人とが共生するまち

施策方針	取り組み方針
I 生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の保全</li> <li>・希少種の保全、外来種の拡大防止の対策</li> <li>・他機関や市民との連携、種ごとに必要なモニタリングや対策の推進</li> </ul>
II 自然との共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災、減災機能を活用するEco-DRRの推進</li> <li>・野生鳥獣の生態を他機関と情報共有し、管理と調和する対策の検討</li> <li>・市民が自然を学び、楽しめる自然情報の普及啓発</li> </ul>

【連携・協働分野】 教育・パートナーシップ  
全ての人々が環境を学び、考え、行動することで、環境施策に「協働」で取り組んでいるまち

施策方針	取り組み方針
I 環境教育の推進、環境意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育と環境学習の推進</li> <li>・環境情報の収集・発信</li> <li>・環境活動の担い手などの人材育成</li> </ul>
II 様々な主体との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換・交流の場づくり</li> <li>・協働体制の整備(活動団体への支援)</li> <li>・他自治体、民間等の関係団体(機関)との新たな環境産業の創出</li> </ul>

4. 令和5年度事業概要について

環境基本計画	事業項目	目的	R5年度		
			目標	到達目標	
自然との共生	I. 情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる				
	①保護センター館内				
	1.常設展示の維持管理	来館者に向けて、石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示する。後浜からカシワ林までの連続した植生については、展示から実物の観察園につなげる。	開館中については、軽微な修繕等を継続し、来館者が見やすい施設づくりを心掛ける。冬季閉館中に、常設展の内容について検討を進める。	→	
	2.フィールドマップの管理	石狩浜周辺の自然環境を伝え、保護センターだけではなく自然地の情報について展示する。	いくつか特定の場所を決め、その場所の自然情報を紹介する。展示場所については開館当初に設定する。		
	3.観察園開花情報の発信	来館者に対して観察園の開花状況や、保護センターの最新の様子を伝える。またセンターとして観察園の日常を記録し、長期的な保護センターの自然情報の記録とする。	観察園の情報更新による観察園での海浜植物情報の発信と、合わせて観察園での実物観察を促す。(写真のみの見学が多く、実物と観察に至らない来館者が多いため)	新設	
	4.調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然や保全について、最前線で活動する専門分野の情報を科学的な視点から発信するほか、保護センターを利用した教育機関からの学習成果等の掲示など、保護センター職員以外の視点から石狩浜の活動を発信する。	年間1～2団体から、石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果を掲示する。	→	
	② 観察園				
	1.園路および表札の整備・維持管理	来館者が安全・安心な環境のもと、快適に園内散策ができるように整備をする。	観察に適した園路の維持管理。必要に応じた木道等の修繕。植物名等のサイン表示。	→	
	2.ゾーンの目的に沿った植生維持管理	①来館者に対し、石狩浜の見本的な植生を観察できる場とする。 ②アクティブラーニングを主として、海浜植物の生態的な特徴を展示と連動して学べるように管理する。 ③知り得た情報を蓄積し、海浜植物の保全に活用する。	【湿地ゾーン】 R4年度に整備した水環境の改善後の経過観察と必要に応じた補植。苗づくり。展示との連動。 【再現区】 帯状構造に沿った現状植生の維持管理。半安定帯の維持管理について知見を蓄積。 【ほりほりゾーン】 環境学習、夏休み自由課題等での利用促進。	→	
	③ハマナス再生園				
	1.体験学習やイベントを想定したハマナス再生園の整備・維持管理	石狩浜ハマナス再生プロジェクトの再生事業の一環として、ハマナス群落の再現手法及び、効果的な維持管理手法の検討。	自生地の群落組成に近づけるため、ハマナス以外の自生種の播種や移植を進める。継続した維持管理と、環境学習等での利用を増やす。	→	
	2.市民参加によるハマナス再生園維持管理の実施	市民参加による維持管理と活用。	市民参加型の維持管理作業を引き続き実施する。		
	④環境学習				
	1.事前学習の補助	石狩浜の海浜植物をはじめとした、石狩浜の自然について知る機会の創出を目的に、取り組みやすい仕組みづくりと実施をアクティブラーニングを主体として進める。	R4年度で検討した時間・目的・季節別のプログラムについて実施し、検証する。	↗	
	2.ワークシート・体験プログラムの構築				
	⑤来館者のニーズ、意識把握				
	1.アンケートの実施	来館者からの意見を聞く機会の創出。	来館されたお客様の率直なご意見を伺い、運営の参考にする。	→	
	⑥情報配信				
	1.ホームページ維持管理				
	2.情報誌の発行	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。	海浜植物の開花や、保護センターでの出来事を小まめに発信し、興味を持ってもらう。	→	
	3.調査研究等報告会の開催				
	4.近隣施設での情報案内				
	5.CISEネットワーク・館ネットワーク・その他団体主催事業への協力・出展	石狩市外を主に、石狩浜及び保護センターについて積極的なPR。	外部ネットワークへの可能な範囲内で事業協力	→	

		II. 生物多様性の保全・データの蓄積			
		①現植生・生物相の把握			
生物多様性の保全	1.石狩浜モニタリング調査	<p>【植物】 観察園における植生管理の基礎データ、石狩浜の植生遷移や変化を把握等を目的に長期的なデータの蓄積を図る。 ※前年度の事業項目名「自生地における見本植生の選定と植生調査(海岸草原保全手法の検討)」を変更。</p> <p>【動物】 石狩浜で生息の動向に注目したほうが良い動物を選定し、選定種の生息状況をモニタリングする。選定種の生息状況が危ぶまれる際には、保全手法の検討できる情報になるようにデータを蓄積する。</p>	<p>昨年度に選定した見本植生区(12か所18区)の部分的なモニタリングと、新たに2か所4区(はまなすの丘公園内ハマナス群落と半安定帯の植生)の植生調査を行う。</p> <p>選定種の選定と、その種の生息地マッピング及び、自動撮影カメラの設置による生息動物の確認。</p>	名称変更・内容追記	
	2.希少種イソスミレの生育状況の把握	希少種イソスミレの生息地について、地理情報及び植生構成を押さえ、環境変化に左右されやすいイソスミレの保全対策に繋げる。	イソスミレの分布と、個体群構成調査、周囲の植生調査の継続。	→	
	3.ハマボウフウの生育状況と採取の影響把握	保護地区に指定しているハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データに資する。	春先の採取による切除が生育に及ぼす影響の把握。保護地区内外における生育状況調査の継続。	→	
	②植生管理に係る手法の検証				
	1.聚富海岸植生再生試験・モニタリング調査協力	海浜植生の再生手法の検討(主催:道総研)。	道総研との連携協力。	→	
	2.海浜植生の維持管理手法の検証(海岸草原保全手法の検討)	自生地の植生を参考として、海浜植生の効率的な維持管理につなげ、保全・管理に関わる知見や技術を蓄積する。	観察園:種の世代交代や遺伝的多様性確保の方法を探る。 ハマナス再生園:自生地の構成種を踏まえ、ハマナス以外の構成種の植被率を増やす。	→	
③資料・データの集約・管理					
1.標本・調査記録・自然情報にかかわる収集・管理	センターに保管している標本の維持管理。調査の記録や報告書の集約。	保護センターの施設状況に合わせた状態維持。	→		
④外来種対策					
1.生育状況把握・範囲・手法の検討、対策実施	石狩浜の環境保護のために、外来種の早期発見と、影響を及ぼす種の駆除を実施する。	他機関との連携した情報の共有と、モニタリング調査のデータから新しい情報の収集、必要に応じた対策を実施する。	→		
⑤保護地区の利用状況把握・監視・啓発・維持管理					
1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づいた海浜植物等保護地区の海浜植物等を保全するための維持管理をする。	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。	→		
2.単管柵の維持管理			→		
3.はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理	公園(観光地)としての景観保全。	目指す自然の景観について専門家を交えた方針の決定。	↗		
		III. 地域資源としての持続的利活用に向けた基盤をつくる			
		①ふれあい地区のルールを普及			
1.ハマボウフウの生育状況調査と連動した啓発型参加型調査	ふれあい地区の本来の意味である自然とのふれあいを通じた海浜植物等の保護を目指すために、保護地区の持続的な活用を目指した企画の開催と継続。	地元小学校の親子を対象に、ハマボウフウを通じた食利用と、保護地区の歩み、ハマボウフウを通じた海浜植物の特徴を体験から学んでもらう。	↗		
		②ハマナス再生園の活用に対する協力			
1.ハマナスを活用した普及啓発	石狩浜ハマナス再生プロジェクトの普及・啓発事業の一環として、ハマナス再生園のハマナスを活用した石狩浜の自然環境のPR、持続可能な利用と保全を目指す。	花卉・果実の利活用による、石狩浜のPR、普及啓発	→		

事業方針

事業概要

環境基本計画方針

I	<p>情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる</p>	<p>【自然情報発信・体験学習事業】 海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の上と郷土愛の醸成を図る。</p>	<p>自然との共生 環境教育の推進、環境意識の向上</p>
---	---------------------------------	--	-----------------------------------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
①保護センター館内	1.常設展示の維持管理	<p>来館者に向けて、石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示する。 後浜からカシワ林までの連続した植生については、展示から実物の観察園につなげる。</p>	<p>開館中については、軽微な修繕等を継続し、来館者が見やすい施設づくりを心掛ける。 冬季閉館中に、常設展の内容について検討を進める。</p>	<p>・補修・修繕の有無を点検(日常業務) ・内容の見直し(冬季閉館中)</p>
	2.フィールドマップの管理	<p>石狩浜周辺の自然環境を伝え、保護センターだけではなく自然地の情報について展示する。</p>	<p>いくつか特定の場所を決め、その場所の自然情報を展示する。 展示場所については開館当初に設定する。</p>	<p>・場所の設定、展示</p>

事業方針

事業概要

環境基本計画方針

I	<p>情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる</p>	<p>【自然情報発信・体験学習事業】 海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図る。</p>	<p>自然との共生 環境教育の推進、環境意識の向上</p>
---	---------------------------------	---	-----------------------------------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
①保護センター館内	3.観察園開花情報の発信	<p>来館者に対して観察園の開花状況や、保護センターの最新の様子を伝える。 またセンターとして観察園の日常を記録し、長期的な保護センターの自然情報の記録とする。</p>	<p>観察園の情報更新による観察園での海浜植物情報の発信と、合わせて観察園での実物観察を促す。 (写真のみの見学が多く、実物と観察に至らない来館者が多いため)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察園の情報の日常的な更新</li> <li>・普及員による観察園への積極的な声掛け</li> </ul>
	4.調査研究報告、学習報告等の掲示	<p>石狩浜の自然や保全について、最前線で活動する専門分野の情報を科学的な視点から発信するほか、保護センターを利用した教育機関からの学習成果等の掲示など、保護センター職員以外の視点から石狩浜の活動を発信する。</p>	<p>年間1～2団体から、石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果を掲示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究機関及び、教育機関に事前調整</li> </ul>

事業方針

事業概要

環境基本計画方針

I	<p>情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる</p>	<p>【自然情報発信・体験学習事業】 海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図る。</p>	<p>自然との共生 環境教育の推進、環境意識の向上</p>
---	---------------------------------	---	-----------------------------------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
② 観察園	1.園路および表札の整備・維持管理	来館者が安全・安心な環境のもと、快適に園内散策ができるように整備をする。	観察に適した園路の維持管理。 必要に応じた木道等の修繕。 植物名等のサイン表示。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常業務内で点検・管理</li> <li>・季節に応じてサインの追加、更新</li> <li>・害虫等の防除</li> </ul>
	2.ゾーンの目的に沿った植生維持管理	<p>①来館者に対し、石狩浜の見本的な植生を観察できる場とする。</p> <p>②アクティブラーニングを主として、海浜植物の生体的な特徴を展示と連動して学べるように管理する。</p> <p>③知り得た情報を蓄積し、海浜植物の保全に活用する。</p>	<p>【湿地ゾーン】</p> <p>R4年度に整備した水環境の改善後の経過観察と必要に応じた補植。苗づくり。展示との連動。</p> <p>【再現区】</p> <p>帯状構造に沿った現状植生の維持管理。 半安定帯の維持管理について知見を蓄積</p> <p>【ほりほりゾーン】</p> <p>環境学習、夏休み自由課題等での利用促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来種等の抜き取り</li> <li>・生育種数の調整</li> <li>・苗の育成や移植後のモニタリング</li> <li>・環境学習等での利用促進</li> <li>・展示内容の見直し</li> </ul>

事業方針

事業概要

環境基本計画方針

I	<p>情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる</p>	<p>【自然情報発信・体験学習事業】 海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図る。</p>	<p>自然との共生 環境教育の推進、環境意識の向上</p>
---	---------------------------------	---	-----------------------------------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
③ ハマナス再生園	1.体験学習やイベントを想定したハマナス再生園の整備・維持管理	石狩浜ハマナス再生プロジェクトの再生事業の一環として、ハマナス群落の再現手法及び、効果的な維持管理手法の検討。 市民参加による維持管理と活用。	自生地の群落組成に近づけるため、ハマナス以外の自生種の播種や移植を進める。 継続した維持管理と、環境学習等での利用を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苗の移植(5月・9月)、移植後のモニタリング</li> <li>・園路整備、外来種・ハマナス被圧種除去等、維持管理(委託業務)</li> <li>・環境学習の実施</li> <li>・石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会と連携した事業の開催</li> </ul>
	2.市民参加によるハマナス再生園維持管理の実施		市民参加型の維持管理作業を引き続き実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハマナスHealthyタイムの実施(月1回程度:委託業務)</li> </ul>

事業方針

事業概要

環境基本計画方針

I	<p>情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる</p>	<p>【自然情報発信・体験学習事業】 海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図る。</p>	<p>自然との共生 環境教育の推進、環境意識の向上</p>
---	---------------------------------	---	-----------------------------------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
④環境学習	<p>1.事前学習の補助</p> <p>2.ワークシート・体験プログラムの構築</p>	<p>石狩浜の海浜植物をはじめとした、石狩浜の自然について知る機会の創出を目的に、取り組みやすい仕組みづくりと実施をアクティブラーニングを主体として進める。</p>	<p>R4年度で検討した時間・目的・季節別のプログラムについて実施し、検証する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習の実施</li> <li>・実施内容の検証</li> <li>・夏休み期間における海浜植物を活用した自由研究課題の発信</li> <li>・環境学習時の補助的な展示について作成を検討する</li> </ul>

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
⑤来館者のニーズ、意識把握	<p>1.アンケートの実施</p>	<p>来館者からの意見を聞く機会の創出。</p>	<p>来館されたお客様の率直なご意見を伺い、運営の参考にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター内にアンケートの設置</li> <li>・オンラインのアンケートも要検討</li> <li>・イベント時におけるアンケートの実施</li> </ul>

I 情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる  
(自然との共生)

【自然情報発信・体験学習事業】  
海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図る。

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
⑥ 情報発信	1.ホームページ維持管理	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。	海浜植物の開花や、保護センターでの出来事を小まめに発信し、興味を持ってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査写真や、観察園の開花情報などを随時更新(目安として月に1度)</li> <li>・年に3回の機関誌発行。</li> </ul>
	2.情報誌の発行			
	3.調査研究等報告会の開催			
	4.近隣施設での情報案内			
	5.CISEネットワーク・館ネットワーク・その他団体主催事業への協力・出展	石狩市外を主に、石狩浜及び保護センターについて積極的なPR。	外部ネットワークへの可能な範囲内で事業協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体の主催イベントに参加</li> </ul>

CISEネットワーク...札幌近郊の自然史系博物館や動物園・図書館などの社会教育施設と大学などの研究機関が連携したネットワーク  
館ネットワーク...石狩市民図書館・公民館・いしかり砂丘の風資料館・石狩浜海浜植物保護センターの4館が合わさって、得意分野の違う4つの施設が、よりよい学習機会・情報の提供等を通してまちづくりを進めていくことを目的とし、地域資源のネットワーク化を図ります。



## 事業方針

## 事業概要

## 環境基本計画方針

II	生物多様性の保全・データの蓄積	<p>【調査・研究・保全事業】          情報発信・体験学習に必要な自然情報のみならず、観察園・再生園の整備に必要な現地情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。</p>	生物多様性の保全
----	-----------------	--	----------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
① 現植生・生物相の把握	1.石狩浜モニタリング調査	<p>【植物】            いくつかの設定したプロットについて生育調査をし、観察園の植生構成や石狩浜の植生遷移の基礎データと資する。</p>	<p>昨年度に選定した見本植生区(12か所18区)の部分的なモニタリングと、新たに2か所4区(はまなすの丘公園内ハマナス群落と半安定帯の植生)の植生調査を行う。</p>	<p>・現地調査(7-8月を予定)</p>
	2.希少種イソスミレの生育状況の把握	<p>【動物】            対象種の選定と、選定種のモニタリング手法の検討</p>	<p>生息地マッピング及び、自動撮影カメラの設置による生息動物の確認。</p>	<p>・分布、個体群調査(5月)            ・周囲の植生調査(8~9月)</p>
	3.ハマボウフウの生育状況と採取の影響把握	<p>保護地区に指定しているハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データに資する。</p>	<p>春先の採取による切除が生育に及ぼす影響の把握。            保護地区内外における生育状況調査の継続</p>	<p>・採取後の生育状況調査(5・7月)            ・生育状況調査(8~9月)</p>

事業方針

事業概要

環境基本計画方針

II	生物多様性の保全・データの蓄積	【調査・研究・保全事業】 情報発信・体験学習に必要な自然情報のみならず、観察園・再生園の整備に必要な現地情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。	生物多様性の保全
----	-----------------	---	----------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
②植生管理に係る手法の検証	1. 聚富海岸植生再生試験・モニタリング調査協力	海浜植生の再生手法の検討(主催:道総研)	道総研との連携協力	植生調査の実施等
	2. 海浜植生の維持管理手法の検証(海岸草原保全手法の検討)	自生地の植生を参考として、海浜植生の効率的な維持管理につなげ、保全・管理に関わる知見や技術を蓄積する。	観察園:種の世代交代や遺伝的多様性確保の方法を探る。 ハマナス再生園:自生地の構成種を踏まえ、ハマナス以外の構成種の植被率を増やす	苗の育成、移植後のモニタリング



事業方針

事業概要

環境基本計画方針

II	生物多様性の保全・データの蓄積	【調査・研究・保全事業】 情報発信・体験学習に必要な自然情報のみならず、観察園・再生園の整備に必要な現地情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。	生物多様性の保全
----	-----------------	---	----------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
③資料・データの集約・管理	1.標本・調査記録・自然情報の収集・管理	地域資料の保管と、保全を進めるための情報の収集と管理をする。	【標本について】 適切な環境で保存されるように、日常的な点検をする。  【自然情報について】 収集データについて、まとめて公開できる体制を整える。	・標本の定期点検 ・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
④外来種対策	1.生育状況把握、範囲・手法の検討、対策実施	石狩浜の環境保護のために、外来種の早期発見と、影響を及ぼす種の駆除を実施する。	他機関との連携した情報の共有と、モニタリング調査のデータから新しい情報の収集、必要に応じた対策を実施する。	・現地調査から必要に応じた対策をする

事業方針

事業概要

環境基本計画方針

II	生物多様性の保全・データの蓄積	<p>【調査・研究・保全事業】                  情報発信・体験学習に必要な自然情報のみならず、観察園・再生園の整備に必要な現地情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。</p>	生物多様性の保全
----	-----------------	--	----------

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
⑤保護地区の利用状況把握・監視啓発・維持管理	1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づいた海浜植物等保護地区の海浜植物等を保全するための維持管理をする	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・監視員の配置</li> <li>・現状の保護地区の監視、車両侵入への対応、ロープの補修等を実施</li> <li>・一部柵の維持管理(植生柵維持管理業務委託)</li> </ul>
	2.単管柵の維持管理			
	3.はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理	公園(観光地)としての景観保全	目指す自然の景観について専門家を交えた方針の決定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光関係部署への連絡調整</li> <li>・関係者間での内陸性植物及び外来種の除去作業の試行</li> </ul>

事業方針

事業概要

環境基本計画方針

Ⅲ

地域資源としての持続的利活用に向けた基盤をつくる

【資源活用の基盤整備事業】

持続可能な範囲内で海浜植物を活用していくことで、海浜植物と関わる郷土文化の継承や、多様な主体が保全に関わる基盤の構築。

自然との共生  
様々な主体との連携・協働

	項目	目的	R5年度目標	具体的な業務内容
①ふれあい地区のルールの普及	1.ハマボウフウの生育状況調査と連動した啓発型参加型調査	ふれあい地区の本来の意味である自然とのふれあいを通じた海浜植物等の保護を目指すために、保護地区の持続的な活用を目指した企画の開催と継続	地元小学校の親子を対象に、ハマボウフウを通じた食利用と、保護地区の歩み、ハマボウフウを通じた海浜植物の特徴を体験から学んでもらう。	・ハマボウフウ調査と普及啓発を兼ねたイベントの実施(4月下旬～5月上旬に実施)



事業方針

事業概要

環境基本計画方針

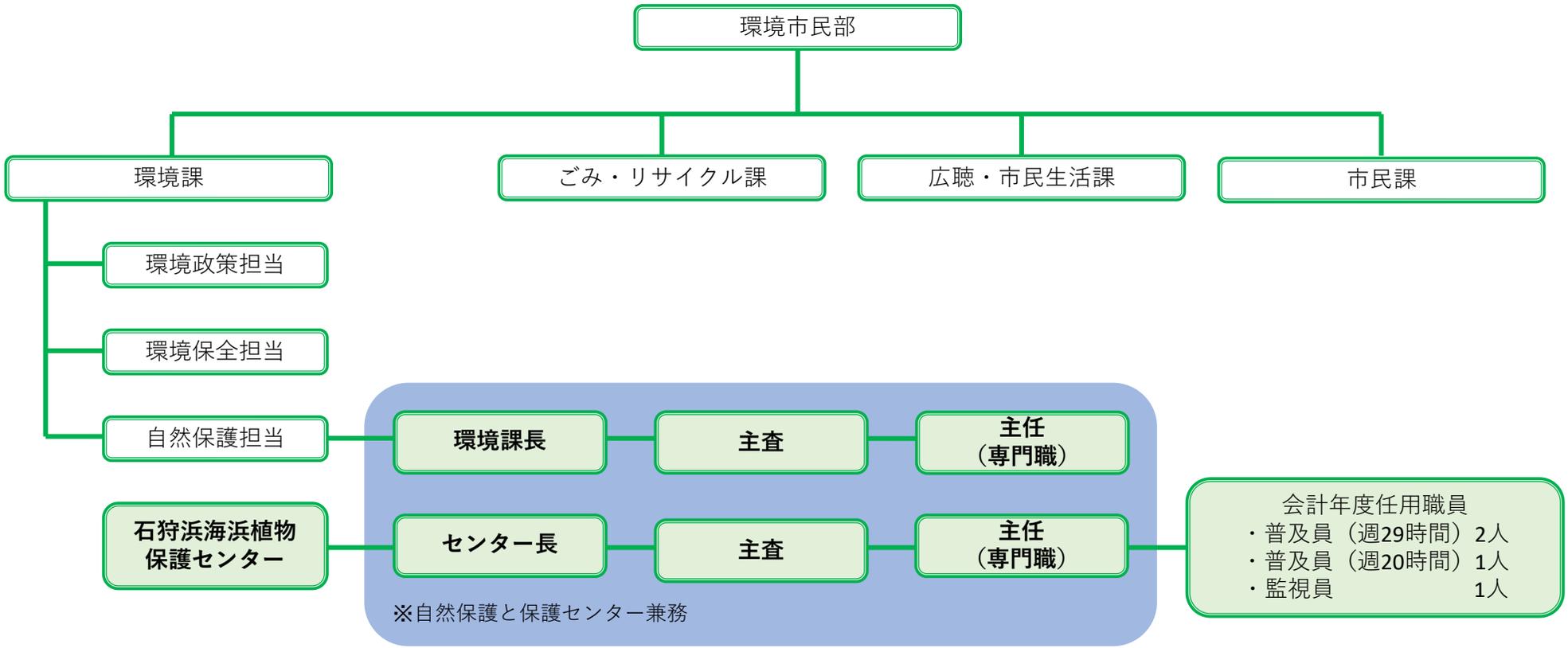
Ⅲ	<p>地域資源としての持続的利活用に向けた基盤をつくる</p>	<p>【資源活用の基盤整備事業】                  持続可能な範囲内で海浜植物を活用していくことで、海浜植物と関わる郷土文化の継承や、多様な主体が保全に関わる基盤の構築。</p>	<p>自然との共生                  様々な主体との連携・協働</p>
---	---------------------------------	---	---

	項目	目的	R4年度目標	具体的な業務内容
②ハマナス再生園の利活用	1.ハマナスを活用した普及啓発	石狩浜ハマナス再生プロジェクトの普及・啓発事業の一環として、ハマナス再生園のハマナスを活用した石狩浜の自然環境のPR、持続可能な利用と保全を目指す。	花卉・果実の利活用による、石狩浜のPR、普及啓発	<p>事業者へのハマナス花卉・果実の提供と、ハマナス再生園管理への協力のお願いと対応</p> <p>石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会と協力した普及啓発</p> <p>体験型ツアー等での利用にかかる対応</p>

石狩浜ハマナス再生プロジェクトとは？

ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりを目指すプロジェクト。市民、事業者、石狩市が連携して、「ハマナス再生園」の整備に取り組み、イベントの実施やハマナスの商品づくりを通じて石狩浜との地域の魅力を発信する。

# 5. 石狩浜海浜植物保護センター運営体制



## 6. 石狩浜海浜植物保護センター開館時間の変更について(令和5年1月現在)

### ■変更理由

①センターの業務内容を再確認→原則2名体制必要

(来館者対応及び内部事務1名、屋外業務1名)

※屋外業務: 観察園・再生園整備、野外調査、図書館花壇整備 等

②自然保護関係業務

(生物多様性地域戦略、希少種保護)増大

③開館前準備作業の時間確保

(施設点検、清掃、消毒等 約1時間)

※環境学習や団体利用は開館時間外でも柔軟に受け入れる(正職員対応)。

### ■変更内容

開館時間 9時 ~ 17時 → **10時 ~ 16時**

### ■今後の予定

令和5年1月 石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

2月 パブリックコメント

厚生常任委員会報告

4月 石狩浜海浜植物保護センター条例施行規則改正・施行

令和5年度 センター開所(29日)